

オペラ《オリンピーアデ》を巡って

レチタティーヴォとアリア「アルカンドロさん、わたくしは告白します／
どこから来たのか、わたくしにはわかりません」 K.294 のルーツ

野口秀夫

1. はじめに

犬輔：東京 2020 オリンピック競技大会が 1 年遅れで開催される予定ですが、いまだに新型コロナの感染が収まらない中での開催ゆえに、万全の感染防止対策で臨んでほしいものです。

鳥代：古代オリンピックがギリシアのオリンピアで始まったのは BC776 年と言われているから 2800 年近くの歴史があるのね。ただし、AD393 年に最後の古代オリンピックが行われてから一旦は忘れ去られるのよ。ルネサンスの期間に文献上で読まれたり、研究されたりはしたけれど、再開するには 1896 年の近代オリンピックを待たざるを得なかったの。

教授：紀元 0 年が存在しないため古代と現代のオリンピアードは 1 年ずれていて（つまり上記 AD393 年は 4 の倍数でない）。今回は 1 年遅れたことによりそれが一致し、さらに古代オリンピックから数えて 700 回目のオリンピアードに当たるという記念すべき年なのだ⁰。

犬輔：（独白）記念の年に身から出た錆により存立危機となる組織は数知れず…。さて、18 世紀にはオリンピックに現実感はなく、遠い昔の出来事に過ぎなかったということなんだ。

鳥代：メタスタジオに『オリンピーアデ L'olimpiade』という台本があるわ（『オリンピーアデ』は間違い）。アントーニオ・カルダーラが作曲し、1733 年にヴィーンで初演されています¹。

犬輔：モーツァルトにはこの台本から歌詞を得たレチタティーヴォとアリア「アルカンドロよ、わしは告白する／どこから来たのか、わしには分からない」が 2 曲あり、それぞれ K.294 及び K.512 です。

鳥代：三重唱（カンツォネッタ）「数多い恋人たちの間にももう見られない」 K.549 も詩は『オリンピーアデ』からの引用です。

教授：この機会に 18 世紀のオリンピックの捉え方を、モーツァルトの K.294 とその周辺の作曲家の作品を通して調べてみてはどうかね。まずは手始めに、メタスタジオ『オリンピーアデ』の台本から見ていこう。

2. メタスタジオ『オリンピーアデ』ヴィーン 1733

犬輔：メタスタジオは幕の前に“Argomento 主題”を次のように記載しています²。

シキュオーンの王であるクリステーネに双子の子供、フィリント（息子）とアリスティア（娘）が、生まれた。しかし、デルファイの神託が、王は息子に殺されるであろうと予言したため、その助言に従い前者〔息子〕を差し出し、後者〔娘〕を手元に置いた。彼女は美しい女性に成長し、オリンピックで数回優勝した高貴で勇敢な若いアテネ人のメガークレに愛される。後者〔メガークレ〕は、アテネの名前を嫌ったアリスティアの父〔クリステーネ王〕から彼女を得ることができず、捨て鉢になりクレタ島に行く。そこで彼は攻撃され、凶悪犯にほとんど殺されかけたが、その島の王の息子と思われるリーチダによって命を救われる。彼は命の恩人に人情に厚い堅い友情を誓う。リーチダは長い間、クレタ島の高貴な女性であるアルジェーネを愛し、すでに密かに彼女に結婚を約束している。しかし、彼の愛に気付いた〔クレタ島の〕王は、この身分違いの結婚を許さないとし、この不運なアルジェーネを迫害し、国を去ることを強制した。彼女は見知らぬエリス地方〔都市オリンピックがある〕に逃げ、そこでリコーリという名前で、羊飼いの衣服を纏い親戚の恨みや主権者の暴力から逃れ、羊飼いとて新しい隠遁生活を始めた。リーチダはアルジェーネの喪失のために慰められず、しばらくして、悲しみから気をそらすために、自らエリスに行き、全ギリシアから選手が集められ 4 年ごとに繰り返されるオリンピック競技会の厳粛さに立ち会うことを決めた。彼はメガークレをクレタ島に残してそこに赴くと、折しも競技会の主宰者として選出されたクリステーネ王がシキュオーンからエリスにやってきており、自分の娘アリスティアを勝者の賞品としていることを知った。リーチダは彼女を見て、賞賛し、そして彼の初恋の不幸を忘れて、熱心に彼女に恋をしてしまった。彼は競技会で自分自身勝たねばならないと焦ったが、しかし、運動の訓練を受けていないため、それを実践することができないと絶望し、経験の欠陥をどのような便法で補うかに思いをめぐらした。彼の友人が同様の競技で数回勝利したことが彼に思い浮かんだ。そして（アリスティアとメガークレの予てからの愛について何も知らなかった）リーチダはメガークレを利用し、リーチダの偽名で戦わせることを決心した。かくてメガークレも彼の友人の暴力的な要求に屈し、エリスにやってくる。しかし、彼の到着が遅すぎるので、せっかちなリーチダはすでに絶望していた。この時点から、当該劇の構成表現が原則に則って始まる。

ヘロドトス [歴史]、パウサニアス [ギリシア案内記]、博物誌、備忘録、など

鳥代：随分堅苦しい文章なのね。文末に参考文献らしきものが挙げられているけれど、そこから物語のエピソードを引用しているということではなく、古代オリンピックの運営方法や当時の地名を参照したというだけのようなね。

犬輔：翻訳に当たって、人名はオペラ歌手のイタリア語発音に近い表記に、地名に関しては日本における人文系分野での慣例に従った日本語表記にしました（“ギリシア”の表記も含む）^{注3}。

鳥代：ではナンバーごとの内容を次に翻訳しておきましょう^{注4}。

第1幕

枝が絡み合った大きな木に覆われた樹木が茂った狭い谷

第1場：リーチダは家庭教師のアミンタ [男]^{注5}に、アリステアを勝ち取るためにメガークレが代理で競争すると伝えます。しかし彼はことが時間通りに進まないことを恐れています。

第2場：リーチダの心配は杞憂でした：メガークレが現れ、友人の願いを叶える準備ができていると手短かに宣言します（メガークレのアリア：*Superbo di me stesso* 我には自信が）。

第3場：リーチダは将来の幸せを楽しみにしています（リーチダのアリア：*Quel destrier che all'albergo è vicino* その駿馬は近くの宿に）。[競争とは戦車競争であることが分かる]

羊飼いの小屋がある山のふもととの広い土地；
アルフィオス川に架かる素朴な木製の橋；遠くにオリンピアの街

第4場：ニンフたちや羊飼いたちと一緒に、羊飼いに扮したアルジェーネが田舎暮らしの喜びについて歌います（合唱／アルジェーネ：*O care selve* おお愛しの森よ）。

第5場：アリステアと彼女の父親が彼らに加わります。クリステーネは、クレタ島の王子リーチダを含む出場者の有名な名前に誇らしげに言及します。アルジェーネは、恋人が彼女をあきらめたことを知ります。アリステアが遅れの猶予を求めたとき、クリステーネは拒否します：女性は男性に仕えなくてはならぬことに不平を言うべきではないのです。なぜなら、女性の美しさは最終的に男性の力に打ち勝つからです（クリステーネのアリア：*Del destin non vi lagnate* 運命について文句を言うではない）。

第6場：アリステアはアルジェーネに恋人のメガークレを見つけるように頼みます。彼は彼女の彼に対する壊すことのできない忠誠心を知ることになるでしょう（アリステアのアリア：*Tu di saper procura* どうすればよいかなあなたはご存知です）。

第7場：アルジェーネはリーチダの裏切りに苦しんでいます（アルジェーネのアリア：*Più non si trovano* 数多い恋人たちの間にももう見られない）。

第8場：メガークレは、リーチダという名前で競技への登録を済ませたことをリーチダに伝えます。リーチダは今になって彼に計画の理由を述べ、アリステアという名前を言います。メガークレは、競争のために自分の力を維持したいので、当面は自分の気持ちを抑えています。メガークレが休んでいる間、リーチダはなだめるような歌を歌います（リーチダのアリア：*Mentre dormi amor fomenti* 眠っている間に、愛の刺激が）。

第9場：リーチダが去った後、メガークレは行為の重要性に気づきます：彼は自分の恋人をライバルに誘導してしまうに違いありません。

第10場：アリステアはまだ内面的に問題を抱えているメガークレに出会います。彼女は彼に会えてうれしく、彼が彼女のために戦うと思っています。メガークレはこれを知り、彼女への揺るぎない愛と忠誠を誓います。しかし、彼はあえて彼女に完全な真実を伝えません（メガークレとアリステアの二重唱：*Ne'giorni tuoi felici* 君の幸せな日々）。

ニンフたち、サテュロスたち、羊飼いたちのパレエ

第2幕

第1場：女性は観客席に立ち入ることができないため、アリステアとアルジェーネは競技が終わるのを待ち焦がれています。

第2場：アルカンドロは2人の女性にリーチダの勝利を伝えます。王はすでに寺院でアリステアを待っています。王は彼女がこのニュースを全く喜ぶことなく受け取り、彼を厳しく遠ざけることに非常に落胆します。

第3場：アリステアとアルジェーネは悲しみに深く苦しんでいます（アリステアのアリア：*Grandi, è ver, son le tue pene* あなたの苦しみは本当に大きい）。

第4場：アリステアが去った後、アルジェーネは復讐について考えます。アミンタは、エリスの羊飼いの服を着ている彼女を見て驚きます。アルジェーネはリーチダの不実を嘆きます（アルジェーネのアリア：*Che non mi disse un dì* いつか一緒にと私に言ったのではなかったの？）。

第5場：アミンタは愛が愚かであることを論じます。彼は、嵐のような感情に悩まされている人々を船と比較します（アミンタのアリア：*Siam navi all'onde argenti* 我々は冷たい波間に浮かぶ船のよう）。

第6場：クリステーネは、競技会の勝者として、偽のリーチダ（実際にはメガークレ）を人々に示します（合唱：*Del forte Licida* リーチダの強さに）。メガークレはアリステアに会うのを避けたいと思っています。したがって、彼は勝利のメッセージを自分でアテネの父に伝えたいと宣言します。彼の友人のエジスト（本物のリーチダ）がアリステアの面倒を見、後から彼女を彼のところに連れていくことになりました。

- 第 7 場：アリスティアが来てしまったため、メガークレの目論見は失敗します。彼女の父親が彼女のメガークレを勝者かつ婚約者として紹介したとき、彼女は驚き喜びます（クリステアーネのアリア：*So ch'è fanciullo Amore* 我もそれは子供の愛と知っている）。
- 第 8 場：メガークレはリーチダにしばらくアリスティアとだけにさせておいてほしいと頼む。
- 第 9 場：メガークレはついにアリスティアに真実を告げます：リーチダがかつて命を救ってくれたので、自分は彼の願いを拒否することはできなかった。したがって、自分はそれをあきらめようと決心していると。アリスティアは恐怖から気絶します。メガークレはリーチダを呼び戻します。
- 第 10 場：メガークレはリーチダにアリスティアが目覚めたときに世話をするように頼みます。彼は彼女に「不幸な友人」が泣き去ったとだけ伝えるでしょう（メガークレのアリア：*Se cerca se dice* もし我は何処と彼女が尋ねたなら）。
- 第 11 場：アリスティアが来てリーチダに対して辛辣な告発をします（アリスティアのアリア：*Tu me da me dividi* 私が真っ二つに身が割かれるのを貴方は望むの）。
- 第 12 場：リーチダがアリスティアの怒りを理解しようとしている間、アルジェーネがやって来て、彼女の愛を裏切ったと非難します（アルジェーネのアリア：*No, la speranza* 望みはもはやない）。
- 第 13 場：リーチダは必死です。彼はアルジェーネが詐欺を暴露することを恐れています。さらに悪いことに、メガークレが川で溺死したという知らせを持ってアミンタが現れます。
- 第 14 場：アルカンドロはリーチダに、王が詐欺の罰として国外追放を決定したと伝えます。日が沈む前に出国しなければ死刑です。
- 第 15 場：リーチダはただ死にたいと思います。彼は胸に千の怒りを持っているかのように感じています（リーチダのアリア：*Gemo in un punto, e fremo* 私は今、うめき震えます）。

狩人たちのパレエ

第 3 幕

古い戦車競技場の草の生い茂った廃墟によって 2 つに分割された場面

- 第 1 場：メガークレは漁師によって救助されましたが、それでも死にたいと思っています。アミンタは彼を止めようとします。彼らが知らぬうちに、舞台の反対側ではアルジェーネがアリスティアに軽率行為をしないよう諫めています、メガークレとアリスティアは出会って驚きます。
- 第 2 幕：アルカンドロは、クリステアーネの暗殺未遂のかどでリーチダが逮捕されたと言います。リーチダは死刑に直面していますが、自分自身を守ろうとはせず、友人のメガークレを呼ぶだけです。メガークレはすぐに彼のところに急ぎたいと思っています。しかし、アリスティアは王が彼を脅かす危険性を指摘します。メガークレのために、彼女は自分の父親をなだめることを試みたいと思っています（アリスティアのアリア：*Caro son tua così* ああ、あなたの愛はこれほど）。
- 第 3 場：アルジェーネはリーチダを自らの運命に任せるようにとメガークレに忠告しますが、メガークレは本当の友達としてリーチダのそばに立ち続けたいと思っています（メガークレのアリア：*Lo seguitai felice* 我はそれに喜んで従う）。
- 第 4 場：アルジェーネとアミンタもリーチダを気の毒に思うようになりました。アルジェーネは彼の裏切りにもかかわらず、彼のために彼女の命を与える準備ができています（アルジェーネのアリア：*Fiamma ignota nell'alma mi scende* 訳知らぬ炎が魂に）。
- 第 5 場：アミンタは板挟みになっています。リーチダの教育者として、彼自身が危険にさらされています。しかし、彼は彼を放っておくことを望んでいません（アミンタのアリア：*Son qual per mare ignoto* 我は未知の大海に投げ出された乗客）。

オリンピュアのゼウス大神殿の前

長く荘重な階段が寺院から下りてきます。寺院はいくつかの中間レベルに分かれています。その前には真ん中に祭壇が燃えています。聖なるオリーブの木が生い茂る森のあちこちに、勝利したアスリートのための花輪がその枝から作られています。

- 第 6 場：群衆、王の監視人、白い服を着て冠を被ったリーチダ、そして犠牲の供物を持った司祭の後、クリステアーネも寺院の階段を降ります（合唱：*I tuoi strali terror de'mortali* ジュピターの恐ろしい矢が）。王は死刑囚にもう一つだけ願いを許します。リーチダは最後に友人のメガークレを抱きしめることを頼みます。クリステアーネは彼に不可解な哀れみを感じます（クリステアーネのアリア：*Non so donde viene* この感情がどこから来るのか分からぬ）。
- 第 7 場：メガークレが監視人に連れてこられた後、リーチダは彼にクレタ島に赴き、父親の悲しみを助けるように頼みます。二人は別れを告げ、クリステアーネは犠牲の儀式を開始します（合唱：*I tuoi strali terror de'mortali* ジュピターの恐ろしい矢が —クリステアーネのアコンパニヤート *O degli uomini padre e degli dèi* ああ、人々と神々の父ジュピターよ）。
- 第 8 場：アルジェーネが（まだリコーリの羊飼いに変装したまま）入ってきて、リーチダの代わり

に罰を受け入れるという申し出をしたため儀式は中断します。彼女は自分がリーチダの婚約者アルジェーネであると出席している人々に明らかにしますが、クリステーネは彼女の話を聞くことを拒否します。

第9場：アリストアがアルジェーネを支持して介入し、やっとクリステーネはアルジェーネに話させます。アルジェーネは自分の言葉の証拠として、リーチダがかつて彼女に与えた真珠の首飾りを王に見せます。クリステーネとアルカンドロはこのネックレスを知っていました。クリステーネの息子フィリントは、捨てられたときにそれを身に着けていました。リーチダはアルジェーネの証言を認め、仲間のアミンタから首飾りを受け取ったと付け加えました。クリステーネはアミンタを連れてこさせます。

第10場：アミンタは、コリントの近くの見知らぬ人から宝飾品を受け取ったと言います。すると、アルカンドロは、フィリントを海にさらす命令を受けたが、同情から見知らぬ人、アミンタに子供を与えたと告白します。アミンタは、この子供はリーチダだったと説明します。彼はそれをクレタ島の王に手渡し、王は息子の死後、王位継承者として代わりに彼を育てました。したがって、リーチダは実際にはクリステーネの息子であり、アリストアときょうだいなのです。クリステーネは今、二組の結婚式を望んでいます。フィリントはアルジェーネとメガークレはアリストアと結婚するべきです。しかし、彼が息子であるという理由だけで、フィリントを彼の判決から解放することはできません。メガークレは抜け道を思い付きます。クリステーネはオリンピアの王ではなく、シキュオーンの王であり、彼のオリンピックの主宰職はすでに終わっている。したがって、判断を下すのは彼ではなく、人々です。リーチダ／フィリントは、彼が死ぬことになれば彼の無実の父親も罰せられるであろうことから、これを認めます(合唱：Viva il figlio delinquente 喜べ、この悪い息子よ)。

アリストア側近のギリシア女性とオリンピック選手たちによるパレエ。

犬輔：罪と罰に関して疑問があります。例えば出場選手として登録されていたリーチダを幽閉などによって出場できなくして、メガークレがリーチダに成りすまして賞品を狙ったというのなら、メガークレに罪がありますが、今回は出場選手として登録されていたリーチダが棄権する代わりにメガークレを代理にしたというもので、出場権の無断移譲が問題となり、双方の罪が問われるのではないのでしょうか。リーチダだけに罪があるというのはよく分かりません。

鳥代：メガークレは早々に国外に立ち去ったと思われていたからよ。ただし実際には身投げして助けられて戻ってくるのですけれど。

犬輔：次に、国外追放のはずのリーチダが、突然王の暗殺者として逮捕されるというのは、猶更理解できません。

鳥代：ではそのいきさつが語られる第3幕第2場を訳してみましょう^{注6}。

ALCANDRO
Oh sacrilego! Oh insano!
Oh scellerato ardir!
ARISTEA
Vi sono ancora nuovi disastri, Alcandro?
ALCANDRO
In questo istante rinasce il padre tuo.
ARISTEA
Come!
ALCANDRO
Che orrore, che ruina, che lutto, se 'l ciel non difendea, n'avrebbe involti!
ARISTEA
Perché?
ALCANDRO
Già sai che per costume antico questo festivo dì con un solenne sacrificio si chiude. Or mentre al tempio venia fra' suoi custodi la sacra pompa a celebrar Clistene, perché non so, né da qual parte uscito, Licida impetuoso ci attraversa il cammin. Non vidi mai più terribile aspetto. Armato il braccio, nuda la fronte avea, lacero il manto, scomposto il crin. Dalle pupille accese usciva torbido il guardo; e per le gote, d'inaridite lagrime segnate, traspariva il furore. Urta, rovescia i sorpresi custodi; al re s'avventa: «Mori», grida fremendo, e gli

アルカンドロ
ああ、生贄！ 非常識な！
ああ邪悪な大胆さ！
アリストア
アルカンドロ、さらに新しい災害があるのですか？
アルカンドロ
この瞬間にあなたのお父上は生まれ変わります。
アリストア
どうやって！
アルカンドロ
天国がそれを守らなかったなら、どんな恐怖、どんな破滅、どんな哀哭がそれを巻き込んだことだろう！
アリストア
どうして？
アルカンドロ
すでにご存知のとおり、古代の慣習により、この〔オリンピック競技の〕祝祭日は厳粛な犠牲で終わります。さて、神聖な行列がクリステーネを祝うために護衛を伴って寺院にやって来ました。その時です——私はどちらの側から出てきたのか知らないのですが——衝動的にリーチダが前を横切りました。私はあのようなひどい横顔を二つと見たことはありません。彼は腕に武器を持ち、額を露わにし、上着を引き裂き、髪を乱していました。彼の明るい瞳が、濁って見えません。そして頬を伝った涙の跡が乾いていて、怒りが漲っておりました。驚いた護衛を一撃で倒し、彼は王に急接近します：「彼は死んだ」と叫び、震え、そして額の生贄の鉄器を振り上げます。

alza in fronte il sacrilego ferro. ARISTEA Oh dio! ALCANDRO Non cangia il re sito o color. Severo il guardo gli ferma in faccia; e in grave suon gli dice: «Temerario, che fai?». (Vedi se il Cielo veglia in cura de' re!) Gela a que' detti il giovane feroce. Il braccio in alto sospende a mezzo il colpo. Il regio aspetto attonito rimira: impallidisce; incomincia a tremar: gli cade il ferro; e dal ciglio, che tanto minaccioso pareva, prorompe il pianto. ARISTEA Respiro. ALCANDRO Oh folle! AMINTA Oh sconsigliato! ARISTEA Ed ora il genitor che fa? ALCANDRO Di lacci avvolto ha il colpevole innanzi. AMINTA (Ah! si procuri di salvar l'infelice.) (parte) MEGACLE E Licida che dice? ALCANDRO Alle richieste nulla risponde. È reo di morte, e pare che no 'l sappia, o no 'l curi. Ognor piangendo il suo Megacle chiama: a tutti il chiede, lo vuol da tutti; e fra' suoi labbri, come altro non sappia dir, sempre ha quel nome. MEGACLE Più resister non posso. Al caro amico per pietà chi mi guida? ARISTEA Incauto! E quale sarebbe il tuo disegno? Il genitore sa che tu l'ingannasti; sa che Megacle sei. Perdi te stesso presentandoti al re; non salvi altrui. MEGACLE Col mio principe insieme almen mi perderò. (vuol partire) ARISTEA Senti. E non stimi consiglio assai miglior, che il padre offeso vada a placare io stessa? MEGACLE Ah! che di tanto lusingarmi non so. ARISTEA Sì, questo ancora per te si faccia. MEGACLE Oh generosa, oh grande, oh pietosa Aristea! Facciano i numi quell'alma bella in questa bella spoglia lungamente albergar. Ben lo diss'io, quando pria ti mirai, che tu non eri cosa mortal. Va, mio conforto... ARISTEA Ah basta; non fa d'uopo di tanto. Un sol de' guardi tuoi mi costringe a voler ciò che tu vuoi.	アリストテア 何ということでしょう！ アルカンドロ 王は微動だにせず顔色も変えません。厳しい表情は彼を眼前で止めます。そして王は重厚な口調で彼にこう言います:「無謀な。そなたは何をしているのか?」(天国が王たちを見守っていることをよく見なさい!) この言葉で激しい青年の動きを止めます。上腕が打撃を中断します。驚いた王室の視線を集めます: 青白い顔で、彼は震え始め、鉄器を落とします。そして、とても脅迫的であるように見えた目尻からは、涙が溢れ出しました。 アリストテア 安堵しました。 アルカンドロ ああ、狂気の沙汰だ！ アミンタ ああ、勧められないことだ！ アリストテア そして今、父はどうしていますか？ アルカンドロ 彼の前には、鎖で縛られた犯人がいます。 アミンタ (ああ！ 不幸な人を救わなくては) (去る) メガークレ そして、リーチダは何と言っていますか？ アルカンドロ 要望を聞いても応答しません。彼は死刑ですが、彼はそれを知らないか、気にしないようです。泣くに付け、彼のメガークレの名を呼びます: 彼は皆に尋ねます、彼は皆にそれを望んでいます。そして口を開けば — — 他に何も知らないかの如く — — いつもその名前を呼ぶのです。 メガークレ もう我慢できません。同情を持って私を親愛なる友人に誰か案内してくれませんか？ アリストテア お気を付けください！ そして、あなたの計画は何でしょうか？ 父王はあなたに騙されたことを知っています。あなたがどんなメガークレか知っています。あなたは王に自分を提示することによって自分自身を失います。他人を救わないでください。 メガークレ 私の王子と一緒に、私は少なくとも破滅するでしょう。(去ろうとする) アリストテア 聞いてください。そして、あなたはもっと良い忠告 — — 私自身が行って、気分を害した父親をなだめるという — — を考えませんか？ メガークレ ああ！ 自分をおだてる方法など分からない。 アリストテア はい、これがまだあなたのために出来ることです。 メガークレ 寛大な、素晴らしい、慈悲深いアリストテア！ 神々よ、この端麗な容姿の中にその美しい精神を長い間宿らせてください。そう、私が最初にあなたに会ったとき、あなたは死すべきものではないと言いました。行ってください、私の拾う神... アリストテア ああ、十分です。それ以上は結構です。あなたのことを一目見ただけで、私はあなたが欲しいものを欲しくなります。
--	---

Caro, son tua così, che per virtù d'amor i moti del tuo cor risento anch'io. Mi dolgo al tuo dolor; gioisco al tuo gioir; ed ogni tuo desir diventa il mio.	いとし人、私はあなたのものです、 愛のおかげで 私もあなたの心の動きを 感じます 私はあなたの痛みを後悔しています。 私はあなたの喜びを喜び、 そしてあなたのすべての欲望は 私のものになります。
(parte)	(退場)

犬輔：やっぱり暗殺の動機がわかりません。ご乱心によるものなのでしょうけど。

鳥代：物語として神託の決着をつける必要があったのでしょうか。

教授：古代オリンピックの慣例に倣って閉幕時に生贄の儀式というのは神話がかっているが、競技期間中に犠牲者が出ることなく、恙なく大会が終了したことへの古代なりの神への感謝の表現であった。一方で、身代わりの罪を許す特例がオリンピック主宰者の任期切れによる権力の失効であるとしたのはまさに現代にも通じる解決策だ（暗殺の大罪の方をいとも簡単に許すのは民衆には知られていないからであろう）。

3. アルカンドロよ、わしは告白する／どこから来たのか、わしには分からない

鳥代：それでは、死刑の宣告を我が子に課したことに気付かず、連れて来られた犯人を見て湧いてくる不思議な感情を歌ったレチタティーヴォとアリア「アルカンドロよ、わしは告白する／どこから来たのか、わしには分からない」に的を絞って調査しましょう。

犬輔：その部分は第3幕第7場にありますが^{注7}。

CLISTENE Alcandro, lo confesso, stupisco di me stesso. Il volto, il ciglio, la voce di costui nel cor mi desta un palpito improvviso, che lo risente in ogni fibra il sangue. Fra tutti i miei pensieri la cagion ne ricerco, e non la trovo. Che sarà, giusti dèi, questo ch'io provo?	クリステーネ アルカンドロよ、わしは告白する。わしは自身に驚いておる。この男の顔、睫毛、声がわしの心に突然の鼓動を引き起こし、それは全身の血流に感じる。わしは考えをめぐらせ原因を探すが、見つからぬ。わしが感じるのは、正義の神々よ、何であろうか？
Non so donde viene quel tenero affetto quel moto, che ignoto mi nasce nel petto; quel gel, che le vene scorrendo mi va. Nel seno a destarmi sì fieri contrasti non parmi che basti la sola pietà.	どこから来たのか、 わしにはわからぬ。 わしの胸のうちに人知れず 生まれ出ずるこのときめき、 血管を流れゆく氷のような おののきがどこから来たのか。 この胸に目覚める そのような激しい相克 わしにはその理由が 哀れみだけとは思えぬのだ。

鳥代：この歌詞とその訳はそのままモーツァルトの K.512 にぴったりね。

犬輔：K.512 はバス歌手フィッシャーのためのコンサート・アリアだから王役に矛盾はない。

鳥代：K.294 も元々は男声すなわちテノール用に作曲したのよ。手紙にこう書いているわ。

ぼくは「ヨハン・クリスティアーン・」バッハによって実にすばらしく作曲されている「どこから来たのか、わしにはわからない」云々のアリアも、練習のために書きました。そのきっかけは、ぼくがバッハの曲をととてもよく知っているし、たいへん気に入っていたし、いつも耳のなかで鳴っていたからです。それをすっかり無視して、バッハのとはまったくちがうアリアが作れるものかどうか、試してみたかったからです。——結局、まったく似ても似つかないもの、ぜんぜん違うものができ上がりました。

犬輔：ところがそれをソプラノ用に書き換えたんですね。

このアリアは、初め、[テノールの] ラーフのために書いたのですが、その冒頭部はラーフには高すぎるとすぐに気づきました。そして、彼のために改めるにはその部分がとても気に入っていたし、楽器編成の点からみても、ソプラノのためのほうがよりふさわしいように思われました。そこで、このアリアはヴェーバー嬢のために書こうと決めました。[中略] これはアンダンテ・ソステヌートです（前に小さなレチタティーヴォがあります）。中間部に第二節「Nel seno a destarmi この胸に目覚める」がきて、再びソステヌートに戻ります。曲が完成したとき、ぼくはヴェーバー嬢に言いました。「このアリア、自分で勉強してごらん下さい。自分の趣味で歌ってみる事です。そのあとぼくに聴かせてください。そのあとで、ぼくの気に入ったところと、気に入らなかったところを、率直に言います」。二日後に行ってみると、早速、彼女はぼくに歌ってくれました。しかも

彼女自身の伴奏で。ところが、彼女はまさにぼくが望んでいた通りに、まさにぼくが教えようと思っていた通りに、ぴったりと歌ったことを認めざるをえませんでした。これはいまや彼女のレパトリーのなかでいちばんいいアリアで、このアリアで、この曲なら、どこへ持って行こうと、彼女の名誉となることは請け合いです。(1778.2.28 マンハイムからザルツブルクの父宛て)

鳥代：ソプラノが歌うのですから、女性が恋人に感じる恋慕の情に読み替えて歌うのよ。モーツァルトも歌詞を朱記の通り変えていますから、翻訳も次のように変える必要があるわ。

Alcandro, lo confesso, stupisco di me stessa. Il volto, il ciglio, la voce di costui nel cor mi desta un palpito improvviso, che lo risente in ogni fibra il sangue. Fra tutti i miei pensieri la cagion ne ricerco, e non la trovo. Che sarà, giusti dèi, questo ch'io provo?

Non so donde viene
quel tenero affetto
quel moto, che ignoto
mi nasce nel petto;
quel gel, che le vene
scorrendo mi va.
Nel seno a destarmi
sì fieri contrasti
non parmi che basti
la sola pietà.

アルカンドロさん、わたくしは告白します。わたくしは自分自身に驚いています。この殿方のかんばせ、睫毛、み声がわたくしの心に突然の鼓動を引き起こして、それは全身の血流に感じるのです。わたくしは考えをめぐらせ原因を探しましたが、見つかりません。わたくしが感じているのは、正義の神様、何なのでしょう？

どこから来たのか、
わたくしにはわかりません。
わたくしの胸のうちに人知れず
生まれ出るこのときめき、
血管を流れゆく氷のような
おののきがどこから来たのでしょうか。
この胸に目覚める
そのような激しい相克
わたくしにはその理由が
哀れみだけとは思えないのです。

犬輔：楽譜を載せておきます。モーツァルトはスケッチ zu K.294 [bei Skb1778a] 注8 を書いており、作曲の過程を知ることができます。テノール用に一旦完成して、それをソプラノに書き換えるにあたって、なおスケッチを必要としていたんですね。



譜例 1.1 スケッチ zu K.294 [bei Skb1778a]

鳥代：歌唱部の装飾譜も残っています。譜例 1.2 は第 1 節の歌唱部装飾です。『邦訳書簡全集』では「たぶん作曲時期と同時期に試みられたもの」とされています。それもあつてか NMA では本編の歌唱部の上段に追記されています。



譜例 1.2 歌唱部装飾 (ブラウンシュヴァイク蔵)



譜例 1.3 歌唱部装飾 (フランス国立図書館蔵)

犬輔：譜例 1.3 は第 1 節の繰り返し部の歌唱部装飾ですが、一部のフレーズをオリジナルとは前後入れ替えるよう —— オーケストラを含めて —— 求められています。NMA では本編の楽譜の第 1、2 節に続ける形で編集したものが付録に収められました。

教授：歌唱部の装飾については 1783.4.12 のレーオポルト宛て手紙で言及している。NMA 序文はブラウンシュヴァイク稿もパリ稿も筆跡からはこの頃の記譜を示唆するという。

鳥代：とはいえ、この頃のアロイージアは自ら装飾を付けられたはずですので、昔書いてあげた装飾を思い出してレーオポルトに報告するただけに作成したものなののでしょうか。

教授：ところで、モーツァルトが言及しているクリスティアーンの作品がどれか分かるかね。

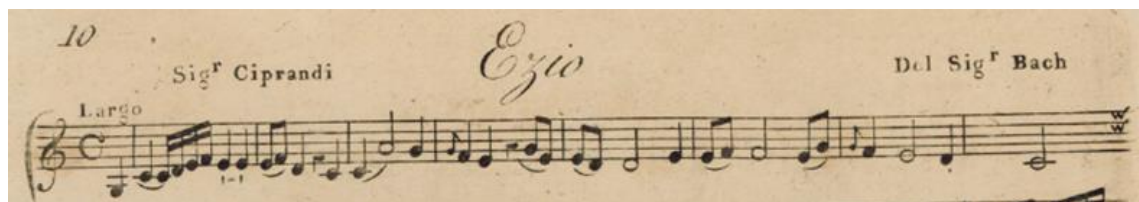
犬輔：はい、調べました。1764.11.24 からロンドンのキングズ・シアターで上演されたパステイッチョ《エツィオ》にクリスティアーンのこのアリアが使われました。当時モーツァルト一家はロンドンに滞在していましたから、「バッハの曲をととてもよく知っているし、たいへん気に入っていたし、いつも耳のなかで鳴っている」のはこの時の経験を言っているものと思われます。

鳥代：この時モーツァルトは8歳でしょう。K.294 作曲時には22歳です。「いつも耳のなかで鳴っている」と言えるほど鮮明に記憶しているものなのでしょう。

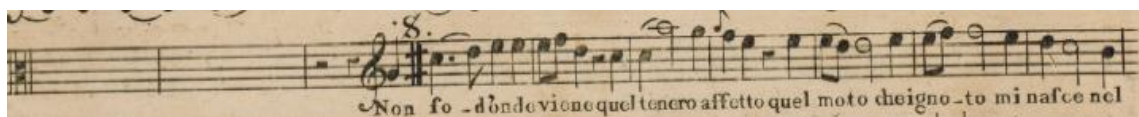
教授：自慢ではないが私ですら小学校の校歌を今でも歌える。先日母校のホームページで久しぶりに聴いてみたところ、一部齟齬があったが、楽譜を見たことがないにもかかわらず、記憶は鮮明であった（作曲者が森正だったことはそこで初めて知ったのだが）。

鳥代：分かりました。モーツァルトはパステイッチョ上演の曲を記憶していたとしましょう。でも、歌詞はパステイッチョを参照したのではないのよ。歌詞^{注9} ^{注10}が朱記のように『オリンピーアデ』の台本と異なっているの。マッシモ役はテノールのチブランディでした。

ATTO III SCAENA II	第3幕 第2場
Val. Tu torna, amico, a preparar leschiere al destino del reo. Mas. Vado. [Si finga una pietà, ma mendicata]. Augusto, Io sento che l' orrore e la minaccia di castigo, di morte mi fanno impietosir. In Ezio io vedo un traditor, è ver ; ma pur mi desta un palpito impiovisio ; la cagion ne ricerco, e non la trovo. Che sarà, giusti Dei! questo ch' io provo ? Non so d'onde viene Quel tenero affetto, Quel moto ch' ignote Mi nasce nel petto, Quel gel che le vene Scorrendo mi vâ. Di stringerti al seno Mi ottengano il vanto Quel sangue quell pianto L' affanno il dolore Che costa al mio core La mia fedeltà.	ヴァレンティニアノ 友よ、あなたは反逆者の運命を定める残忍者の役回りです。準備してきて下さい。 マッシモ 行きましょう。(憐れむふりをするが、懇願する)。 アウグストよ、恐怖と罰の脅威、死の脅威が私を同情させているのを感じます。じっさい私は、エツィオに裏切り者を見ます。しかし、それでも彼は突然の鼓動を私にもたらしめます。その理由を探そうとしても、私にはそれを見つけられません。それは何であらう、神よ！ 私が感じるこれは何ですか？ どこからやってくるのか わたしは知らぬ、 わたしの胸のうちに人知れず 生まれ出ずるこのときめき、 血管を流れゆく氷のような おののきがどこからやってくるのか。 あなたを胸に抱きしめることが 私の誇り その血、その叫び、 息も絶え絶えの痛みは 私の心と 私の忠実さを犠牲にする。



譜例 2.1 J. C. バッハ「どこから来たのか、わたしには分からない」前奏（パステイッチョ《エツィオ》から）



譜例 2.2 J. C. バッハ「どこから来たのか、わたしには分からない」第1節（パステイッチョ《エツィオ》から）

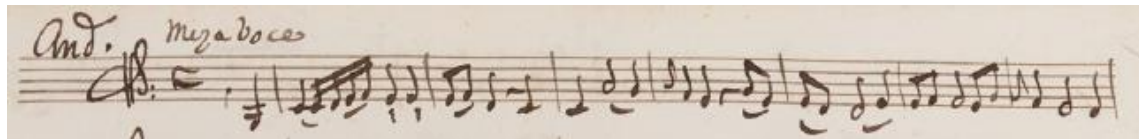


譜例 2.3 J. C. バッハ「どこから来たのか、わたしには分からない」第2節（パステイッチョ《エツィオ》から）

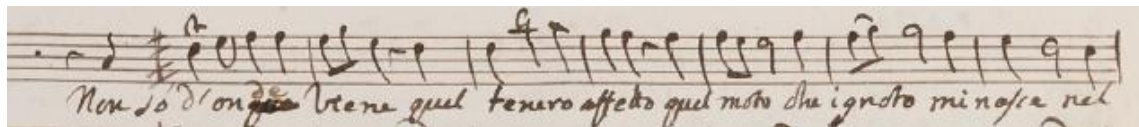
犬輔：クリスティアーンに他の版はないのですか。

鳥代：《インドのアレッサンドロ》1762 版にも使われていました。こちらはオリジナルのオペラです。アントーン・ラーフが歌いました。第 2 幕 第 7 場から引用します^{注 11, 注 12}。

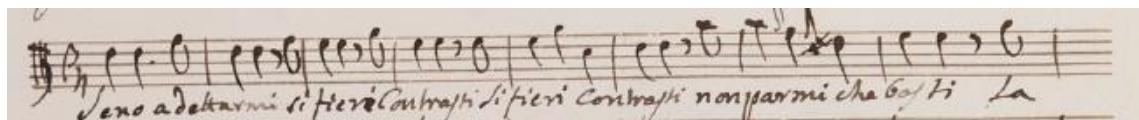
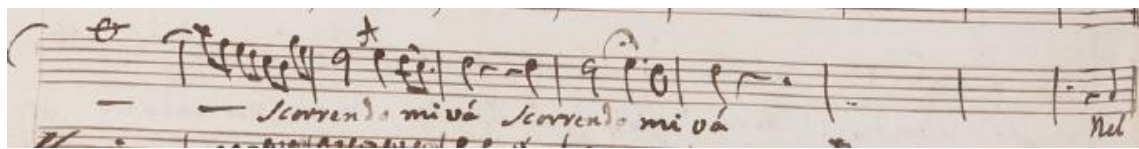
ALESSANDRO Ma Cleofide attende. Il suo periglio Inorridir mi fa . Si vada . Ah dove Alessandro t'inoltri ? E ' dunque vinto Il ritegno natio del tuo gran core, E la tua gloria (oh Dio !) cede all'amore ? Dunque m'offerse invano L'Asia le sue bellezze ? Invan finora Trionfai d'ogni sguardo ? Ah ! non è amore, Che debole mi rende : E ' la pietade Ch'a difender m'astringe una Regina, Ch'infelice è per me. Ma troppo è fiero Degli affetti il tumulto Che risento nell'alma , e troppo è nuovo: Che sarà , giusti Dei , questo ch'io provo ? Non so donde viene quel tenero affetto quel moto, che ignoto mi nasce nel petto; quel gel, che le vene scorrendo mi va. Nel seno a destarmi sì fieri contrasti non parmi che basti la sola pietà.	アレッサンドロ しかし、クレオフィーデは待っている。 彼女の危機は私を恐れさせる。行こう。ああ、 アレッサンドロ、どこに行くのだ？ お前に巢食う大きな心の葛藤は克服されるのか、 そしてお前の栄光(ああ神様！)は愛に屈するのか？ それに、彼女の美しさをアジアが私に提供したのは 空しいことだったのか？ 今までお前がすべてのことに打ち勝ってきたのは空 しいことだったのか？ ああ！ それは愛ではない。何が私を弱くするのか： 不幸な女王が私を擁護するのは残念なことだ。 しかし、私の魂の中で感じる騒動は、愛情を誇りに 思いすぎて、あまりにも新しいものだ。 正義の神々、私を感じるのは何であろうか？ どこから来たのか、 わしにはわからぬ。 わしの胸のうちに人知れず 生まれ出ずるこのときめき、 血管を流れゆく氷のような おののきがどこから来たのか。 この胸に目覚める そのような激しい相克 わしにはその理由が 哀れみだけとは思えぬ。
--	--



譜例 3.1 J. C. バッハ「どこから来たのか、わたしには分からない」前奏（《インドのアレッサンドロ》から）



譜例 3.2 J. C. バッハ「どこから来たのか、わたしには分からない」第 1 節（《インドのアレッサンドロ》から）



譜例 3.3 J. C. バッハ「どこから来たのか、わたしには分からない」第 2 節（《インドのアレッサンドロ》から）

犬輔：これも当然のことながらレチタティーヴォの歌詞が朱記のように異なっているんだ。クリスティアーンにオリジナルの《オリンピーアデ》というオペラはないんですか？

教授：1769.11.11 にやはりキングズ・シアターでパスティッチョが上演されており、これは《オリンピーアデ》と銘打たれているが、残念なことにクリスティアーンの曲としては *Quel labbro adorato* というアリア一曲が使われているに過ぎず^{注 13}、しかもこれはクリスティアーンのオペラ《デメトリオ》第 3 幕第 4 場から流用されたものである。

犬輔：そうですか。パスティッチョは研究者にとっては曲者ですね。一方ロンドンの興行師にとっては多数の作曲家をまとめて捌く便利なオペラ形式であり、個々の作曲家にとってはお気に入り曲にランクインすれば名前が売れるというメリットがあったわけです。クリスティアーンにしても 1762 年のオリジナル作の第 2 節を新しい歌詞に合わせて作曲して直してまで 1764 年のパスティッチョに参加したのはメリットを考慮してのことだったのです。

4. まとめ

鳥代：モーツァルトが“バッハによって実にすばらしく作曲されている「どこから来たのか、わたしにはわからない”云々のアリア」と言った曲はパスティッチョ《エツィオ》でチブランチが歌ったものだったと考えられます。

犬輔：でも、モーツァルトがわざわざ“前に小さなレチタティーヴォがあります”と断っているのは、パスティッチョではセッコだったのをアコンパニャートで書いたということでしょう（おそらくモーツァルト一家も購入したであろう^{注14}『オペラ《エツィオ》お気に入り歌集』にレチタティーヴォの記載がないのはセッコだったからと思われます。なお《インドのアレッサンドロ》はアコンパニャートで書かれていました。いずれにしろ両者とも K.294 のレチタティーヴォとは歌詞が異なります）。またモーツァルトが“中間部に第2節 *Nel seno a destarmi* が来て”と断っているのは《エツィオ》とは第2節の歌詞が異なっていることを言っているのでしょう。したがってモーツァルトが参照した歌詞はクリスティアーンのいずれの楽譜からでもなく、メタスタージョの台本『オリンピーアデ』そのものだったということが分かります。以上を表にしておきます。

詩人・作曲家	Metastasio	J. C. Bach	J. C. Bach	Mozart
作品	L' olimpiade 1733	Alessandro nell' Indie 1762	Ezio (Pasticcio) 1764	Concert Arias 1778, 1787
レチタティーヴォ S: セッコ A: アコンパニャート	Alcandro, lo confesso	Ma Cleofide attende ^A →	Vado. Augusto ^S →	台本通り ^A
アリア第1節	Non so d'onde viene	台本通り	台本通り	台本通り
アリア第2節	Nel seno a destarmi	台本通り	Di stringerti al seno →	台本通り

鳥代：従来 K.294 はクリスティアーンとの関連に言及されるばかりで、メタスタージョの『オリンピーアデ』の台本から直接歌詞を引用したと言及は見たことがありませんでした。モーツァルトが古代オリンピックにどのような思いを寄せたのかは分かりませんが、積極的に台本を読んだのは事実でしょう^{注15}。

教授：トリビアだが、クリスティアーンの曲は 1762 年の《インドのアレッサンドロ》では第1節が 4/4 拍子、第2節が 3/4 拍子である（1764 年の『オペラ《エツィオ》お気に入り歌集』では第1節が 4/4 拍子、第2節は歌詞が異なるので 3/8 拍子である）。

しかし、クリスティアーンの《インドのアレッサンドロ》からとして、第1節が 3/4 拍子、第2節が 4/4 拍子の変形版も残っている。下記譜例は第1節の冒頭である。



RISM では「この変形バージョンは、アリアの破棄された初期バージョンである可能性がある。テンポは後の手で追加されている。f.1r の右上に日付“1787”が後に追加された」と解説している^{注16}。一方、シュミットは「バッハが 1772 年にマンハイムで彼のオペラ《テミストクレ》の世界初演の際にラーフのために行ったと言われている手直しを反映している可能性がある」とするも「モーツァルトが参照したのかは不明である」としている^{注17}。

注0：実際には近代オリンピックだけをカウントするので、700 回目のオリンピアドとは殆どの人が気づいていない。天皇陛下の開会宣言「私は、ここに、第32回近代オリンピアドを記念する、東京大会の開会を宣言します」。

注1：L' olimpiade, Vienna e Roma, si vendono a Pasquino all'insegna di S. Gio. di Dio, 1733

注2：前掲 L' olimpiade, Vienna e Roma, si vendono a Pasquino all'insegna di S. Gio. di Dio, 1733

注3：“ギリシア”の読みは綴字読みではなく、[ぎりしゃ]でいいと思われる。現代国名表記は“ギリシャ”が優勢。

注4：Wikipedia ドイツ語版を翻訳した。また、各ナンバーの翻訳は山田高誌氏の訳を参考にした。記して感謝する。

注5：今では女性名であるが、タッソーの『アミンタ』を原作とした《羊飼いの王》K.208 でも男性であった。

注6：前掲 L' olimpiade, Vienna e Roma, si vendono a Pasquino all'insegna di S. Gio. di Dio, 1733

注7：前掲 L' olimpiade, Vienna e Roma, si vendono a Pasquino all'insegna di S. Gio. di Dio, 1733

注8：Ulrich Konrad: Mozarts Schaffensweise, Vandenhoeck und Ruprecht, 1992, p.134

注9：Ezio: drama per musica, etc. [Altered from Metastasio, with a prose translation.] Ital. & Eng., G. Woodfall, 1764. (台本：レチタティーヴォあり、第2節なし)

注10：The Favorite songs in the opera Ezio, R. Bremner, 1765. (楽譜：レチタティーヴォなし、第2節あり)

注11：Dagmar Schmidt: “sie sieht ihr auch gar nicht, gar nicht gleich” Die Arien “Non so d'onde viene” von Mozart und Christian Bach, in Mozart Studien Band 12, Hans Schneider, 2003, p.15 に台本

注12：Alessandro nell'Indie | rappresentato | Nel Reale Teatro di Napoli 1762 | Del Sig.r Gio.Bach | Maestro di Capella Sassone, (F-Pn: D-360/361) (筆写譜)

注13：Christoph Wolff: The New Grove Bach Family, MacMillan London, 1985, p.343. 台本 L'Olimpiade, an opera. As perform'd at the King's-Theatre in the Hay-Market ... by G. G. Bottarelli, etc. Ital. & Eng, W. Griffin, 1770 にも Non so d'onde viene は記載なし。

注14：前掲 The Favorite songs in the opera Ezio, R. Bremner, 1765. 当時“お気に入り曲集”は複数出版されていて、モーツァルト一家が購入したであろうものは一冊も残っていないという研究者もある。

注15：モーツァルトは 1770.2.7 にミラーノにてフィルミアーノ伯爵からトリノ版『メタスタージョ全集』を贈られている（レーオポルトから妻への 1770.2.10 付け手紙で言及）。

注16：RISM ID no.: 450056453

注17：前掲 Dagmar Schmidt, p.12 そして Ludwig Landshoff ed.: 12 Konzert- und Opern-Arien, C.F. Peters., 1930 (作成：2021 年 6 月 30 日、改訂：2024 年 2 月 20 日)